DIFAR通信

発行 NPO法人DIFAR事務局　2021年1月30日　VOL.35

明けましておめでとうございます。まだまだCOVID-19の脅威が続きそうですが、今できる活動を少しずつ進めていきます！引き続きご支援いただけますと幸いです。本年もよろしくお願いいたします。

今号のもくじ

1 表紙
2 新年のご挨拶(現地代表より)
3 森林火災を経験して(現地住民より)
4 森林火災ボランティアからのメッセージ
5 ボリビアのNGO登録完了のお知らせ
6 現地ボランティアEliaさんご挨拶
7 白山フェスティバル/公式LINEのお知らせ
8 国内事務局からのお知らせ

DIFARとは、ボリビアで使われているスペイン語 Desarrollo Integrar de la Familia Rural
「農村生活の総合的な発展」の頭文字です。ディファルと読みます。

ポストレルバジェの悲劇

ポストレルバジェ　病院長　イサベル　マリスカル

　バジェグランデ州のポストレルバジェ市は主に酪農で生計を立てており、人口 2545 人の住民が 13 のコミュニティを持っています

サンマルコスモスクラのコミュニティで 9 月に、今までに見たことがない大きな火災が発生しました。

大規模な森林火災により野生の動植物や動植物の草原、果樹植物などを植える広い地域を含む原生林保護区など 3 か所で発生し、どんどんと燃え広がっていきました。

毎年行われている農民による開拓、更新のための焼き畑が今回は乾季が長く、雨季を待たずに火入れが行われ、無差別に取り返しのつかない状況になってしまいました。

畑に囲まれた住宅に追い詰められた住人は食べ物と水を確保しながら必死に住宅に火がまわらないように恐怖を感じながら守り続けました。

いったんは鎮まると思われた火災がより強くなり、脅かされたので、ポストレルバジェ市は、災害地帯を宣言し、兵士や国の支援を仰ぎました。民間の消防士のボランティアグループが来てくれ、民家を守ることを優先に消火活動を行ってくれました。

避難を進めても、民家を失うことを恐れる住民たちは現地を離れたがらず、消火活動関係の人たちと合わせて、水や食料が大量に必要になる状況が生まれました。そこで私たちは食糧や、物資の支援をメディアや知り合いを通じて行いました。

そうして、届いた食糧などは何か所に設置した災害センターに届けられ配布されました。また DIFAR は現地まで足を運んでくれ、訪問をしてくれました。とても大切なことです。

そうして私たちは数か月をその 1 か月後の雨が降るまで灰と、恐怖と痛みと戦ったのです。

私たちは、私たちの美しい森林がまた豊かな緑を回復するように、森林再生を実行するための戦いが残っているのです。

新年のご挨拶

現地代表　瀧本里子

2020 年は新型コロナウイルスの影響で色々と変化があった 1 年でした。今まで、会いたい人に会いに行く、行きたいところにすぐに行く、という「当たり前」のことが実は「当たり前」でなくとても幸せなことだったんだ…と気が付いた 1 年でもありました。

今年一年は活動の方も現地に行って家族と何かする、という活動はできませんでしたが、コロナ禍で食糧難や生活苦の家族に物資支援をしたり、またバジェ地域の山火事の現場に行き、物資支援も行い、消火活動にも参加しました。DIFAR が今まで支援の方向としてやってきた持続的な自立を目指すための技術支援プロジェクトができなかったことで、新しい支援の形を今回は経験することになりました。

一昨年から乾季が長く続き、乾燥していた山や畑を開墾するために火入れを行ったが燃え広がり、大規模な山火事に発展してしまいました。ボリビアは昨年の政治の混乱で、暫定政権による政治でしたが、一介の地域の山火事に少ない予算は割けないという事で消火活動がすぐに行われず、どんどんと燃え広がりこの地域では未曾有の山火事に発展してしまいました。

消化のためにフランスからの支援で飛ばされた消火ヘリコプターも燃料代が尽き、山火事を遠くに見ながら止まっていました。現地の人たちはいつ移るかもしれない火の手から民家を守るために、寝ずに番をして近くに迫る火の手を夜遅くまで消火していました。

現地に必要だろうと思って、持参した水や古着、乾物などはもちろん必要なものでしたが、現地に行ってみると何より、消火にかかわっているボランティアの人たちの靴や消火活動に使う鍬やスコップなどが不足していることが分かりました。

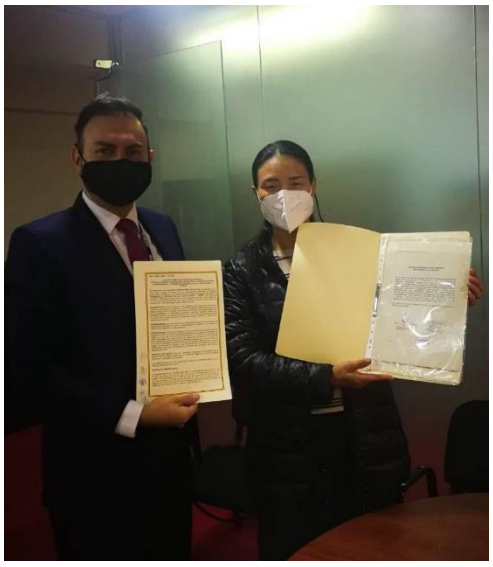
印象的だったのは、何百頭の牛の牧草が焼けてしまい、もう何日も水も飲めない牛たちが、煙がくすぶる黒い土の上で座り込んでしまっている風景です。そしてその持ち主である現地の人たちは、私たちの支援より牛の食べ物を支援してほしい、と涙ながらに訴えていました。同時に、安くその弱った牛たちを買いたたきに来ている業者もおり…もう殺すしかない牛たちもたくさんいるようで、干し肉にされる牛肉がたくさんつるされていました。

お昼の準備を手伝っていると、そういう状況下にありながらも女性たちが大勢集まり、ごはんの支度…となったらやはり冗談と笑いが絶えません。緊急支援の現場は常に涙と人と人とが作り出す温かいものが生まれるんだなぁと感じました。

今、健康で、平和であることに感謝して、先を急がず一歩一歩着実に進んでいける大切な年にしたいです。
～牛歩ではあるが、地に足をつけたゆまず進み続ける～
この一年が、より良き年になりますよう心から祈念いたします。
皆さん、今年もよろしくお願いします。

ボリビアの NGO 登録手続き完了！

現地代表　瀧本里子



ボリビアで NGO 手続きの更新手続きを始めたのがもう何時だったからか忘れるほどだいぶ前でした。ずっとこの間「手続き中」という身分でも特に活動には支障がなく、そのままバジェグランデの第二フェーズが終わってしまいました。

最初の NGO 手続きはとても大変でいろんな人たちの協力や、委託などをしてお金も労力もかかったのでできれば二度とこんなことをしたくない…と思ったのにまた更新。しかし、辛いことや大変なことはすぐに忘れてしまう性格。やり直しも含め 4 年もかかったのに、最終的には取れたんだからラッキ～という思いしか残っていないです。

一昨年の 10 月にボリビアの不正選挙からのクーデターが起こり暫定政権へと変わりました。そしてその次は、コロナ…いろんなことが予想できない形で次々と起こりました。もう、こんな状況じゃダメかな～と半ばあきらめていた時に、ポロっと安産のように、「手続きできました」という知らせが届いた時の嬉しかったことは覚えています。もう 4 年も頭の片隅に、時には頭の全部を占めていた事だったので、拍子抜けしました。

NGO 登録の更新終了後、バジェグランデ市と晴れてプロジェクト前の合意書を交わしました。まだコロナ禍なので、プロジェクトがいつ開始できるか見通しは難しいですが、まずはスタート地点に皆で立てた日でした。

バジェグランデ市は 2018 年にプロジェクトの第一フェーズが終了してからも、人材育成をしたスタッフたちが市役所の職員として一生懸命リサイクル活動の取り組みを続けています。現在の取り組みや、相談、愚痴などもよく共有してくれ、現状がよくわかります。

やはりバジェグランデ市は市長さんがとても素晴らしく安定しているので、普通なら取り残され予算を削られる廃棄物分野もしっかりと現状維持し、さらに新しい活動も始めているようです。回収した生ごみから安定的に堆肥が生産され、その堆肥を使った家庭菜園の啓発と普及をプログラム化して行っているようです。今までは、市の緑地や農家の人たちに使ってもらっていた生ごみ堆肥ですが、市民の人たちにも手軽に使ってもらえるとさらにリサイクルの意識に繋がると思っています。

私も昨年の 3 月からボリビアが長期間ロックダウンしている期間、久しぶりに家庭菜園を始めています。毎日大量に出る生ごみを堆肥にして、野菜を作る。作った野菜を収穫して食卓で家族に食べてもらう、この毎日ですが、それが忙しくそしてとてもやりがいがあります。プロジェクトが始まったら、一人でも多くの市民の人たちが、自分たちが出した生ごみで堆肥を作り、その堆肥で作った野菜を食べられるお手伝いをしたいと思っています！

国内事務局活動報告

事務局　高野栞

昨年 11 月 12 日、「インターナショナルフェスティバル in HAKUSAN」に参加し、出店させていただきました！

開催場所は、三重県津市白山町。DIFAR 事務所のある、美杉町のお隣の町です。夜、星空のよく見える開けたスペースで、どこか落ち着きを覚える焚火の揺れる炎を見ながら、外国の食べ物や民芸品などが体験できるあたたかいイベントでした。北欧のシチュー、ネパールのカレー、イノシシの丸焼きまで…！目で見て＆味わって楽しめます。

DIFAR ブースでは、ボリビアの民芸品や塩の販売と、キヌアスープ、サルテーニャ(ボリビアの総菜パン)の販売をしました。風が強く寒い日だったので、温かいスープを本当に喜んでいただけました。コロナ渦で旅行ができない中、少しでもボリビアの文化に触れていただけて良かったです。まだまだイベント規制は続きますが、このような機会を大切にしたいです。

Desarrollo Integral de la Familia Rural

公式ライン

開設しました！

日々の現地での活動の様子を、ほぼリアルタイムでお伝えしています♪
今後は DIFAR 通信もこちらでの配信に移行させていただきます。

〈DIFAR 公式アカウント友だち追加方法〉
ラインを開く→左下、「ホーム」を押す→右上、プラスのマークを押す
→友だち追加方法の右アイコン「検索」を押す→ID を入力して、検索

ID：@740ulssu　※ご登録をお願いいたします

メッセージ
～山火事支援協力者、
サンタクルスのマラソングループリーダーより～

(DIFAR の事業、デポルスーラのバジェグランデ担当の方から、山火事の際、DIFAR に支援要請をいただきました。現地代表瀧本が現地の知人にも声をかけ、サンタクルスのマラソングループのみなさんが支援物資を集めてくれました。こちらの手紙は、マラソングループのリーダー、パトリシアさんがチームのメンバーに宛てて書いたものになります。)

親愛なるコレカミーノスファミリー(マラソングループの名称)

今日は素敵な良いニュースで目を覚ましたわ！
私たちが支援したシャツ、ショートパンツ、水などが現地に届いたというニュースよ。

私たちのマラソン仲間であるサナエの友達サトコが、私たちに協力できるかどうか私たちに尋ねて支援物資を集めたよね。

サナエやサトコの助けがなければ、私たちは小さな支援に参加できなかったので、
彼女たちの協力的なサポートと、皆に感謝しているわ。

現地の方々、支援の声を上げてくれてありがとう。
そして、あなたたちの寛大な心で迅速に対応してくれてありがとう！

神様はあなたたちの家族に幸福をもたらします。
あなたたちにも、彼らにも健康、喜び、愛を与えます。
日々私たちは素晴らしい方々に囲まれていると、
そしてそれを神様が導いてくれていると感じるわ！

ファミリーありがとう！

自己紹介

現地ボランティア

Elia Romero Rojas

オーラ！！私の名前はエリア・ロメロ・ロハス、年は 24 歳、職業は農業エンジニアでバジェグランデ出身です。大学卒業後は、廃棄物の統合管理と、廃棄物の分別とリサイクルの問題における 市民のエンパワーメントに取り組んできました。2021 年 1 月から 11 ヶ月の間、DIFAR と共にバジェ地域と呼ばれる地域に属する自治体の環境教育や廃棄物管理に関するさまざまな活動を支援するボランティア活動を行います。

私は、バジェ地域全体の環境の向上に貢献することを主な課題として、将来的にはバジェ地域全体での環境教育や廃棄物問題に関する経験の交流の源となり、環境意識や固形廃棄物リサイクル活動の協力も担う場づくりをしたいと思っています。

この 11 ヶ月間の私の挑戦となる予定の活動は次のとおりです。

1. パンパグランデ市とサマイパタ市の自家用コンポストの普及

2. バジェ地域に属する 11 の自治体の環境共同体のコーディネート

3. バジェグランデ市の廃棄物課で必要とされるプロジェクトを実施

4. バジェグランデ市の村人に使用される石油を用いた石鹸づくり

このボランティア活動 DIFAR で行えることをとても嬉しく思っています。よろしくお願いいたします。

国内事務局よりお知らせ

★事務局ではボリビアの物品を販売し、活動の資金にしております。通信販売もしております。
ご希望の方はメール info@difar.jp または TEL090-9181-4554 までお知らせください。
★料金改定について　今年からDIFARは課税団体となり、記載の価格に消費税が追加されます。

1. **ボリビア岩塩**　まろやかなボリビア岩塩は、サラダやお肉にひとふりすると味に深みがでます！粒状/粉状　　一袋 350g　400 円
2. **手紡ぎ・手織りの羊毛織物**（3000 円～）キッチンマットに使えそうな長いものから、玄関マットにできそうな四角いサイズのものまで、大小様々取り揃えています。
3. **八重山モズク** 塩抜きして酢の物に、鍋物に、天ぷらに、みそ汁に入れてお楽しみください。　300 円（350g）

4. **アルパカマフラー**　今の寒さにこれ一枚でかなり防寒！　5000 円
5. **小銭入れ/長財布**　ボリビアの色鮮やかな織物で作られた小銭入れや長財布は、とてもおしゃれで使いやすい！
   小銭入れ 500 円/長財布 1000 円

活動支援のお願い

DIFAR は会費と寄付金、助成金、物品販売の利益等で運営しています。ボリビアに日本の声が届くように、ボリビアの活動や文化、人の動きを日本に伝えるために資金が必要です。皆さまのご協力をお願いいたします。

［寄付］ 随時受付中です。切手で寄付していただくことも可能です。

［会員］　正会員　5000 円／年（会の運営に参加できます。総会で議決権があります）
賛助会員　3000 円／年（会の活動を応援してくださる方）
マンスリー会員　1000 円／月（希望により、正会員か賛助会員かを選んで頂けます。会費は月々1000 円からお納め頂けます）
法人会員　一口 20000 円／年

会員の特典　会報誌「DIFAR 通信」をお届けします。会主催事業の案内、毎年 DIFAR カレンダーをお届けします。会主催の講演会に無料で参加できます。

【振込先】

郵便振替口座 00890-0-122793 ﾄｸﾋ）ディファル、 三菱東京 UFJ 銀行　店番 450 普通 0649345 DIFAR

NPO 法人 DIFAR 事務局　〒515-3421 三重県津市美杉町八知 1383
Tel：090-9181-4554　メール：info@difar.jp　URL：https://difar.jp/